

■競技上の諸注意について

令和8年7月23日 審判長

本大会は、現行の日本卓球ルールおよび細則を適用して実施する。

1. 競技方法

団体戦は、第1ステージは5試合すべてを行い、勝敗が同じ時は5試合すべての結果をもとに勝率計算を行う。第2ステージトーナメントおよび代表決定リーグでは3点先取制で行う。

2. ラケット・ラバー・ボールについて

- (1) ラケットの本体は、JTAAの文字および商標があり、ラバーは、ラケット本体を覆っているラバーの表面、或いは被覆されていない本体の表面は無光沢で、片方は黒、他方は片方の黒やボールの色とはっきり区別できる明るい色でなければならない。また、ラバーは公認マークやメーカーの商標・ロゴ等がラケット本体のグリップに最も近く、はっきり見えるように貼らなければならない。
- (2) 外国製ラケットでJTAAのマークのないものを使用する場合は、試合前に審判長の許可を得ること。ラバーはJTAAもしくはITTFのマークがあればよい。
- (3) ラバーはラケット本体の外周いっぱいまで貼るものとする。はみだしたり、不足したりする貼り方をしないこと。ラバーの欠損は2mm以下とし、打球面の欠損しているラバーは使用できない。
- (4) アリーナ内でのラバーの貼り替えは禁止する。
- (5) ラバーの貼り方を含め、不備のあるラケットでコートに入ることがないように監督の責任において適切な事前指導を徹底すること。不備がある場合には、審判長の判断で使用させないことがあり得る。
- (6) 大会試合球は、VICTAS・ニッタク・ヤサカ・タマスの4社製品のプラスチック製ボールホワイトとする。
ボールのメーカー選択は、コートに入ってからに双方の話し合いで決定する。お互いの希望が違う場合はじゃんけんにより決定する。
- (7) 試合のインターバルの間（休息时间を含む）は、ラケットはコートの上に置いておくこと。

3. サービスについて

- (1) サービスの構えのとき、手のひらの上に置かれたボールはエンドラインより後方で、プレーイングサーフェスより高い位置であること。
- (2) オープンハンドサービスとし、ボールは回転を与えることなく16cm以上の高さにほぼ垂直に投げ上げること。
- (3) ボールが投げ上げられた瞬間から打球するまでの間、身体の一部などでボールをレシーバーから隠してはいけない。
- (4) 違反サービスには注意を与えるので、以後繰り返さないように注意すること。

4. プレーの継続について

- (1) 試合の開始・終了の挨拶は、礼および握手をするだけとし、必要以上の礼は省くこと。
- (2) ポイントが決定した後は、速やかに次のサービスやレシーブの体制をとり、競技時間の短縮に心がけること。

- (3) タオルの使用は6ポイント毎のサービス交代時、5ゲーム目のチェンジエンド時のみとする。
- (4) 選手はゲーム間の休息時間にプレー領域を離れてはいけない。

5. タイムアウト制について

- (1) タイムアウト制は、団体戦で代表決定リーグ、個人戦で4回戦以降に適用する。
- (2) 選手がタイムアウトを取るときは、主審に両手で「T」の字をつくり伝えること。
ベンチコーチが取る場合は、ベンチにある「T」の書かれたカードを主審に示すこと。
- (3) タイムアウトは1試合に1度とることができ、その時間は1分以内とする。
- (4) 団体戦では、監督または競技者本人、個人戦では競技者本人またはベンチコーチ（登録してある監督またはアドバイザー、もしくは当該校の生徒）がとることができる。
- (5) 団体戦で複数台使用の場合に限り、アドバイザーがタイムアウトをとることができる。（中体連特別ルール）

6. 服装について

- (1) 服装規定は現行の日本卓球ルールによる。
- (2) 団体戦の出場者は同一のユニフォーム（半袖・短パン）を着用すること。身体的な障がい、その他の理由でトレーニングウェアを着用する場合は、審判長に了承を得る。
- (3) ユニフォームが同一の場合は双方ジャンケン等でどちらか違うユニフォーム着用する。
同色の場合や黒と濃紺、青と紫、赤とオレンジなど似通った場合も交換する場合もあるため2種類以上ユニフォームを用意することが望ましい。

7. 審判について

- (1) 今大会は選手による相互審判で行う試合も含む。
- (2) 試合終了後、団体戦は監督、個人戦は選手が対戦記録用紙に署名をすること。

8. 一般的注意事項

- (1) 団体戦でベンチに入れるのは登録者（選手8名以内、監督またはアドバイザーの2名）のみとする。ただし、外部指導者（アドバイザー）が単独でベンチに入ることにはできない。**※1 ※2**
- (2) 個人戦でベンチに入れるのは、登録してある監督、またはアドバイザーもしくは当該校の生徒のうち1名のみとする。試合の途中でベンチコーチを交代することはできない。
- (3) 選手へのアドバイスは、ゲーム間の1分間以内の休息時間とタイムアウトの要求が認められたときのみとする。選手はラケットをコートの上に置く。
- (4) 観覧席からアドバイスをしたり、サインを出したりすることは厳重に慎むこと。
- (5) 抗議権は、団体戦についてはベンチに入っている監督、個人戦については競技者本人にしか認められない。なお、外部指導者（アドバイザー）に抗議権はない。**※1**
- (6) 試合運営を円滑に行うために、個人戦出場選手はプログラムに記載されたタイムテーブルを確認し、進行状況を見て選手待機場所に集まること。原則、タイムテーブル通りに試合を開始するが、進行に遅れが出た場合は、前の試合が終了次第直ちに行う。試合開始時刻になっても選手が現れない場合、アリーナに放送を入れる。2度の呼び出しをしても来ない場合には棄権とみなす。

※1 ただし、監督業務の遂行が認められている外部指導者（アドバイザー）については、その限りではない。

※2 1名の監督が男女のチームを引率している場合において、男女団体戦が同時に進行している際には、監督とは異なる方に外部指導者（アドバイザー）が単独でベンチに入ることを認める。（中体連特別ルール）

■競技進行について

1. 競技日程

【第1日目】 開始式…12:30～ *監督会議は行わない(HPに資料掲載)

団体戦第1ステージ …13:00～16:20 (リーグ戦)

※第1ステージ終了後、第2ステージの抽選を行う。

【第2日目】 団体戦第2ステージ …9:00～11:50 (トーナメント戦)

個人戦3回戦まで …12:00～16:10

【第3日目】 団体戦代表決定リーグ…9:00～13:00

個人戦決勝まで …13:00～15:00

表彰式 …15:00～15:30

2. 使用コート

(1) 団体戦は以下のように台を指定して進行する

第1ステージ…すべて3台同時使用で進行する。

第2ステージ・代表決定リーグ…2台同時使用を基本とするが、試合開始から50分経過時点で決着がついていない場合、予備台を使用し3台で進行する。

(2) 団体戦・個人戦とも若い番号のチーム(選手)が本部席に向かって左側のベンチに入る。

但し、団体戦は試合が連続する場合は、ベンチを変えないこと。

3. 団体戦オーダー用紙の提出および交換

(1) 団体戦のオーダー用紙(男子青枠、女子赤枠の3枚複写式)は、フルネームで誤記がないように十分に確認したものを、提出用封筒に入れて各コートでコート主任に提出する。

(2) オーダー用紙の提出は、各チームの監督またはコーチが行う。

(3) オーダー用紙の提出は、各試合開始時刻の10分前からとする(タイムテーブル参照)。ただし、試合が遅れている場合は、前の試合終了後直ちに行うので、可能な限り事前の準備をして提出すること。(オーダー用紙提出時刻は放送が入らないので注意すること。)

(4) オーダー用紙の配付については下記の通りとする。なお、2部以上書き損じた場合は、必ず監督が書き損じたオーダー用紙を持参の上、本部席に新たな用紙を受け取りに行くこと。

①第1ステージ分…受付時に配付した袋の中に予備の1部を含めて3部ずつ配付。

②第2ステージ分…組み合わせ抽選会終了後、その場で第2ステージに出場する各チームに1部ずつ配付。また、1回戦終了後、2回戦に進むチームの監督は、本部席に取りに行く。

③代表決定リーグ…第2ステージ終了後、代表決定リーグに進むチームの監督はオーダー用紙3部を本部席に取りに行く。

4. 試合の進行

(1) 3日間の午前・午後の第1試合は、放送の指示により各コートに整列し、一斉に試合を開始する。

(2) 1日目の団体戦の進行のみ放送のコールを行い、2日目以降の試合進行は基本的にタイムテーブルにそって行い、放送のコールは原則しない。

- ① 2 日目以降の団体戦は原則時間通りに進行するため、競技開始予定時刻の 5 分前までに指定されたコートに集合すること。
- ② 個人戦は、自分の前の試合が始まったら、進行状況を確認し、コート番号を確認の上準備すること。
- ③ 個人戦では、競技開始予定時刻の 5 分前までに、選手待機場所の所定の席に座って待機すること。
試合の進行状況によって試合時刻が予定時刻より早くなることはない。ただし、状況に応じて、コートを変更して試合を行う場合がある。時間になっても選手がコートに入らない場合には放送でコールする。試合会場にしか放送は流れないので注意すること。2 回のコールで選手が現れない場合は、失格とする。
- ④ 事前(当日の朝まで)にわかっている棄権者はロビーに掲示する。急遽棄権する場合は、放送する。
- (3) 試合に使用するタオルは、用意されているかごに入れて使用する。
- (4) 試合終了後の礼は 1 度とし、その後の相手監督への礼は進行上慎むこと。
- (5) 試合終了後、団体戦は監督またはアドバイザーが対戦記録用紙に署名をする。個人戦は、選手が対戦記録用紙に署名をする。

5. その他

(1) 開始式・表彰式について

- ① 開始式は、団体の第 1 試合のある学校は試合のできる服装になり、時間までにベンチに着席した状態で参加する。それ以外の学校は観客席で行う。
- ② 2 日目の個人戦開始の前に、個人戦に向けて諸注意を改めて連絡するので、以下のように着席していること。
 - ・ 第 1 試合がある選手～11:50 までにコートのベンチに着席する。
 - ・ 第 1 試合がない選手～観客席に移動する。
- ③ 昨年の優勝杯は、事前に本部席に返却すること。
- ④ 表彰式は、対象者・対象校を集めて行う。

(2) 審判（主審）について

- ① 団体戦・・・第 1 ステージは相互審判で行う。第 2 ステージ以降は審判員が行う。
 - ・ ゲーム（セット）ごとに、コート主任に結果を報告する。（試合結果の記入はコート主任）
 - ・ 相互審判は以下のようにする。
 - i) 番号の小さいチームが 1 番・4 番、番号の大きいチームが 2 番・5 番の主審を行う。
 - ii) ダブルスの主審は審判員が行う。

② 個人戦

【第 2 日目】

- ・ 1 回戦 1 回目目は審判員が行う。
- ・ 2 回戦以降は敗者審判とし、試合に負けた選手はその場に残って次の試合の主審（主審）を行う。
- ・ 敗者審判は以下の流れになる。
 - i) 1 ゲーム（セット）ごとに、コート主任に結果を報告する。（試合結果の記入はコート主任）
 - ii) 試合が終わったらコート主任から記録用紙をバインダーごと受けとり、選手にサインをしてもらい、両者に記録用紙の 2 枚目（または 3 枚目）を 1 枚ずつ渡す。
 - iii) 1 枚目の記録用紙をバインダーごとコート主任に返却する。

【第 3 日目】 審判員が行う。

(3) 会場の出入り

- ・ 体育館内では原則 I D タグを身に付け、体育館の出入りの際には必ず係員に提示すること。

(4) 熱中症対策について

- ・ 会場内および練習会場では換気のため、外気とつながる窓やドアを開けることがあります。また、公開練習については必要に応じて、台や時間に制限を設けます。